

ひめゆり と やまゆり

今年^こは新型コロナウイルス^{かんせんしやう}感染症の影響で、さまざま行事^{きぎ}が規模を縮小して実施されたり、中止されたりしています。6月23日に沖縄県の摩文仁の丘で開催された「慰霊の日」の式典も、県外からの招待者^{しやうたいしや}を呼ばずに行われました。その式で、沖縄県立首里高校3年生の高良朱香音（たからあかね）さんが、自らつくった詩「あなたがあの時」を朗読しました。

懐中電灯^{かいちゆうでんとう}を消してください
一つまた一つ光が消えていく
真っ暗になったその場所は
まだ昼間だというのに
あまりにも暗い
少し湿^{しめ}った空気を感じながら
私はあの時^{そうぞう}を想像する
(中略)

あなたがあの時
勇気^{ふりしぼって}を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは 知った
永遠に解かれることのない戦争^{のろ}の呪い^{のろ}を
決して失われてはいけない平和^{とうと}の尊^とさを
(後略)

高良さんの詩をネットの動画で何度も聞きながら、わずか3か月余りで軍人・民間人あわせて約20万人の人が亡くなるという壮絶な戦闘^{そうぜつせんとう}であった沖縄戦のことは、やはり伝え続ける必要があることだと思いました。高良さんと（そしてみなさんと）同年代の沖縄県立第一高等女学校及び師範学校女子部の生徒たちが、将兵の看護のために「ひめゆり部隊」に編成され、戦場で半数以上の生徒が亡くなったことを、みなさんもどこかで聞いたことがあると思います。

2年生が9月に予定していた修学旅行については、リスク回避^{かいひ}を理由に来年の1月に延期^{えんき}しました。私もとても悩みましたが、ぜひみなさんに安全に沖縄に行き、ガマ（鍾乳洞を利用した地下壕^{ちかごう}）にもぐったりして、十分に学んできてほしいと思い、決めました。

そしてもう一つの「ゆり」の話。それは昨年「校長室よりNO.6」で書いた「津久井やまゆり園」での無差別殺傷事件^{むさべつさつしやうじけん}のことです。平成28年7月26日に元職員が夜間に施設に侵入し、入所者・職員19名を殺害、27名を負傷させました。被告は死刑判決を受けましたが、裁判^{さいばん}の中で明らかになった障害者に対する差別的主張^{さべつてきしちゆう}は、障害の有無に関わらず「ともに生き」「ともに学ぶ」ことを大切にする本校の教育方針とも、真っ向から対立する内容でした。

「ゆり」に関わるどちらの出来事も、私たちは決して忘れてはいけません。